

工芸と産地 この体験が 今と未来をつなぐ

JAPAN CRAFT EXPO 日本工芸産地博覧会 2023

2023年11月3日(金・祝)～5日(日) 会場：大阪 万博記念公園内お祭り広場



一般社団法人日本工芸産地協会（所在地：奈良県奈良市、代表理事会長 能作克治）は、2021年に続き、全国55の工芸産地が集う体験型イベント「JAPAN CRAFT EXPO 日本工芸産地博覧会 2023（にほんこうげいさんちはくらんかい）」を2023年11月3日（金）～5日（日）大阪 万博記念公園内お祭り広場で開催いたします。

日々の暮らしを支える工芸の数々は、全国約300の工芸産地で生み出されています。ここに繰り広げられる体験型イベント「日本工芸産地博覧会」は、この工芸産地から、北は北海道、南は沖縄まで55のつくり手が一堂に会し、一つの大きな産地をつくり上げるものです。

コンセプトは「工芸が見つめる未来 体験が解き放つ 産地への衝動」。全国各地で培われてきたものづくりが集う場で、技に触れ、語り、今を生きる姿、未来へのきっかけを感じれば、訪れた人はきっとその土地へ行ってみようという気持ちで駆り立てられるでしょう。その昂ぶりは、職人たちの意欲を燃やし、工芸産地の次を切り拓くにちがいありません。

そして万博の開催が間近に迫る大阪からこのつながりを世界中に拡げていくために、想いと志を強く高く、ここに再び日本工芸産地博覧会を開催いたします。職人に学ぶワークショップや実演・物販、産地に根付いたフードマルシェ、圧倒的な数の工芸体験をご用意しています。

日本工芸産地博覧会 2023

日程：2023年11月3日(金・祝) 4日(土) 5日(日) 10:00 開場 17:00 閉場 (万博公園への入園は16:30まで)

場所：大阪 万博記念公園内お祭り広場 (大阪府吹田市千里万博公園1-1)

入場料：500円 (中学生以下無料) (万博公園への入園料別途 大人260円 小中学生80円)

内容：ワークショップイベントの開催 日本全国の工芸品の展示・販売、

マルシェイベントの開催

出店：工芸メーカー55社、フードマルシェ等

WEBサイト：<https://kougei-sunchi.or.jp/expo/>

職人の技を見て、話を聞き、全ての工芸に触れる3日間

1970年の大阪万博のシンボル太陽の塔が見守るお祭り広場の約12,000平方メートルの屋外スペースに、全国55の工芸産地が集います。目指したのは、産地のまるごと体験。金属、陶磁器、木工、漆、紙、繊維、皮革など多様な工芸産地が集結し、実際に製造現場を見学しているような臨場感ある実演やワークショップ、産地の風土に根付いたフードマルシェなどが出展予定です。さらに工芸とハプティクス（デジタル接触伝達技術）、いけばな教室、かつて日本の製鉄を支えたたたら吹き再現など、必見の特別コンテンツが皆さんを出迎えます。

出展ブランド例（日本全国から55ブランドが出展）



ササキ工芸・SASAKI【北海道】
職人の技と機械加工の双方を生かし、一点物に近い造形とロット生産可能な精度の両立が自慢。



大館工芸社【秋田県】
1959年創業、製材、曲げ加工、桜皮縫い、底入れ、仕上げまで一環で行う。



玉川堂【新潟県】
1816年創業、銅板を金槌で叩いて成形する鋳起銅器の技を継承。



菅原工芸硝子・Sghr【千葉県】
1932年創業、一貫して手仕事によるガラス製造を続ける。



飛騨産業・HIDA【岐阜県】
ブナの曲木家具づくりで1920年創業。節や杉の魅力ある家具で飛騨の匠の心を受け継ぐ。



注染手ぬぐいにじゆら【大阪府】
注いで染める注染という染色技法で、今の時代にそぐう手拭いを。にじんだりゆらいだり。



能作【富山県】
400年伝わる鋳造技術と型破りな発想で、代表作の曲がる鋳製品を生み出した。



SHAQUIDA【広島県】
180余年受け継がれた熊野筆の伝統技法と名工のクラフトマンシップが生み出す化粧筆。



壺屋焼窯元育陶園【沖縄県】
壺屋焼300年の歴史を持つ。下絵なしで精緻な柄を彫る職人技が受け継がれている。

特別プログラム



Craf Touch
ハプティクスと工芸



たたら製鉄
大阪特別操業



フードマルシェ



ステージMC 道代 小まき



ステージコンテンツ手ぬぐい体操



TEAM EXPO 共創チャレンジ

開催の背景 「工芸が見つめる未来 体験が解きはなつ 産地への衝動」 想いと志を強く高く 日本工芸産地博覧会 2023 開催へ

一般社団法人日本工芸産地協会は、産業として衰退のみえる伝統工芸に対し、革新的なデザインやブランディングにより持続可能な発展成長を目指す工芸製造企業経営者が、将来の工芸産地像を描くために集まり設立。工芸産地ブランドは、地域の歴史、風土、文化からその根源的価値を発見することに非常に長けており、ブランディングによる企業や製品の価値伝達は地域価値の伝達の重なる部分が非常に大きいため、その成功は企業だけでなく、属する地域の持続的成長発展に大きく貢献しています。工芸産地の企業ブランドによる地域の価値発見および伝達で生じる域外消費者によるブランド認知とロイヤリティの向上は、そのブランドが属する地域への誘客を促す可能性を大いに持っており、工芸産地ブランドの成長と地域の活性化は相乗的に効果を発揮するため、過去の歴史遺産的工業施設（八幡製鉄所、富岡製糸場等）の観光化ではなく、生きた産業観光の推進を実行すべきと考えています。1925年パリ万博、1970年大阪万博においても日本文化の発信に工芸は大きく貢献してきた歴史もあります。

日本工芸産地協会は、2025年大阪関西万博にて『工芸産地での出展』を目指します。そのために2021年第1回日本工芸産地博覧会を開催しました。前回大会は会員企業17社の知見を結集し、お祭り広場（面積約12,000㎡）にて、日本全国（27府県）から53社の工芸産地ブランドが参加し、工芸製作体験を提供し、各社ブランド製品の販売を行いました。株式会社高野竹工（京都）による入場ゲート、株式会社ナカニ（大阪）による伊達干しやぐら、株式会社田部（鳥根）によるたたら製鉄復元など、工芸産地を表現するシンボリックかつモニュメンタルな構造物を設置しました。来場者にはスタンプラリーを提供し、ゴール地点に万博ブースを設置しました。ここでは大阪関西万博への想いや願望を来場者が書き込むボードを設置し、万博への機運を盛り上げました。なお当博覧会は日本国際博覧会協会が推進するチームエキスポ共創チャレンジにも認定され、同協会と連携して万博ブースの運営を行いました。来場者には飲食物、ステージイベントを提供し、博覧会をたのしんでもらうとともに工芸産地のファン獲得を目指しました。全国27府県から数多くのブランドが物販催事をするのではなく、全ての出展ブランドが体験ワークショップを実施することが最大の差別化要素であります。この開催成功を、工芸で日本の未来に豊かな文化を醸成することを目指そうという思いから、今回の第2回日本工芸産地博覧会 2023 開催となりました。

出展ブランド：SASAKI / 弘前こぎん研究所 / OIGEN / 大館工芸社 / アルテマイスター / スノーピーク / 玉川堂 / すずもの提灯 / Sghr / 亀の子東子西尾商店 / こまぐむ / WAZAO-IPPON feat. 江戸和竿 / 駿府の工房匠宿 / まくらのキタムラ / HIDA / 松島組紐 / BROOK FURNITURE CENTER / 指勘 / かもしか道具店 / 鉢マニア / 能作 / 福井洋傘 / 谷口眼鏡 / Hacoa / 漆琳堂 / 箸蔵まつかん / 山次製紙所 / 五十嵐製紙 / 清原織物 / 高野竹工 / 中川政七商店 / パックインタカギ / SOCKS FACTORY SOUKI / 大和工房 / 北岡本店 / エコノレッグ / 堺一文字光秀 / FUJITA KINZOKU / waccara / HOTTA CARPET / 和泉木綿 / 注染手ぬぐい にじゅら / 菊井鋏製作所 / 中井産業 / 和ろうそく kobe 松本商店 / ISHIDASEIBOU / FLAT（高田織物） / SHAQUDA / たなべたたら の里 / 竹虎 / 増田桐箱店 / 鍋島虎仙窯 / ヤマチク / 琉球びんがた普及伝承コンソーシアム / 壺屋焼窯元育陶園

開催概要

主催：一般社団法人日本工芸産地協会 特別協力：読売新聞社

運営：日本工芸産地博覧会実行委員会

特別協賛：日本航空株式会社

後援：公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会（予定）

協力：株式会社 JTB 株式会社シティライフ NEW 万博記念公園マネジメント・パートナーズ 西日本旅客鉄道株式会社 Peatix Japan 株式会社

総合ディレクション：graf / クリエイティブディレクション：服部滋樹 / 会場設計：竹之内佳司子、合田知代 / アートディレクション / 企画：村川晃一郎 / デザイン：赤井佑輔 (paragram)

LP サイト制作：株式会社 MRI / ディレクション：古澤佑介 / デザイン：中田由実子 (SOUP)

TEAMEXPO 共創パートナー TEAMEXPO 共創チャレンジ

一般社団法人日本工芸産地協会

コンセプトは、「産地の一番星が産地の未来を描く」。「産地の一番星」たる各産地の企業同士が、衰退の一途をたどる日本の工芸や産地の現状に危機感を持ち、業種や地域の枠を超えて互いに切磋琢磨しながらそれぞれの産地の未来を切り開いていくことを目的として2017年に設立。2023年現在、19社のものづくり企業が加盟。

会長は株式会社能作 代表取締役の能作克治氏。理事副会長に、飛騨産業株式会社 代表取締役の岡田賛三氏。各産地のモデルケースを共有する機会としてカンファレンスの企画運営や、工芸・産地に関するコンサルティング、講演などの事業を行う。

〈お客様お問合わせ先〉

イベント WEB サイト <https://kougei-sunchi.or.jp/expo/>

Instagram @kougei_sunchi Twitter @kougeisunchi Facebook @kougeisunchi

〈報道関係者様お問合わせ先〉

日本工芸産地博覧会実行委員会

広報担当 kouhou@kougei-sunchi.or.jp / 安川純子 080-6113-0612